

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 3 月 23 日 (2006.3.23)

【公開番号】特開 2000-278488 (P2000-278488A)
 【公開日】平成 12 年 10 月 6 日 (2000.10.6)
 【出願番号】特願 平 11-79286
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/04 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 1/04 1 0 5

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 2 月 6 日 (2006.2.6)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 4 1 】

この画像読取ユニット 2 4 の副走査方向移動過程で投影スクリーン 9 の内面に対するマイクロフィルム 4 の拡大投影画像光が画像読取ユニット 2 4 のケース 1 0 内に主走査方向である縦長のスリット開口部 2 3 から入光してミラー 1 1 ・フィルター 1 2 を介して読取センサー 1 3 に入射することで主走査光電読取され、その読取信号が不図示の信号処理回路に伝送される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 4 2 】

マイクロフィルム 4 から投影スクリーン 9 までの光路長と、マイクロフィルム 4 から画像読取ユニット 2 4 の読取センサー 1 3 までの光路長は等しく設定されており、投影スクリーン 9 上の画像が正しく焦点調整されていれば読取センサー 1 3 上の画像も正しく焦点が合った状態となる。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 4 7 】

即ち、読取センサー 1 3 を含む画像読取ユニット 2 4 には、画像読取モード時に、画像読取ユニット 2 4 に対する外光部分を常に遮光する関係に該画像読取ユニット 2 4 の移動に連動して副走査方向へ移動する可動の遮光部材 1 4 により該遮光部材 1 4 の影が映されることで、b から c の不要な外光の入射が確実に遮断される。従って外光入射による悪影響を排除して読取画像またはコピー画像の質を向上させることができる。

【手続補正 4】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 9
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

画像読取モード時においても副走査方向に移動していく幅狭の遮光部材14に対応する投影スクリーン9内面部分以外の投影スクリーン9内面部分は画像投影がされているので、画像読取モード時も投影スクリーン9で表示画面が見られる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

上記第2の実施例の装置の場合、画像読取ユニット24と遮光部材14が交叉する時に画像読取ユニット24を一時停止させる制御を必要とする。この制御を無くすには、投影スクリーン9左側の外光を第1の遮光部材14が遮断し、投影スクリーン9右側の外光を第2の遮光部材14が遮断することで達成できる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

この実施例によれば、投影スクリーン9の背面に画像読取ユニット24が設置されていなくても、光路を切替えた第2ミラー8の上部に設置された画像読取ユニット24と連動して動作する遮光部材14を投影スクリーン9の背面に設置しておくことで、第1の実施例と同様の効果を得ることができる。